

令和7年度学校自己評価システムシート (県立松山女子高等学校)

目指す学校像	社会で活躍する「凛として輝く」人材を育て、地域の期待に応える進学校
--------	-----------------------------------

重点目標	1 生徒・教職員により「主体的な学び」を実現する。 2 志を高く持たせ、意欲を高め、第一志望の進路実現を図る。 3 学校行事、部活動、委員会等を通じてコミュニケーション能力を向上させ、自主自立の精神を培う。 4 信頼される女子校として、高い生活規律の維持と異校種連携や社会体験等で地域に貢献する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	3名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価						
年度目標					令和7年度評価(2月1日現在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	・授業態度、主体的に学びに向かう態度は向上してきており、今後さらに生徒の主体的な学びを深めるための工夫としてICTの効果的な活用方法を検討しながら、授業力向上を推進する必要がある。	・教員の授業力を向上をさせ、理解度を高め主体的に学ぶことのできる生徒の割合を更に増やす。	①相互の授業見学などとおして、効果的なICT活用方法の共有と授業力向上を推進する。 ②昨年度実施した教育課程の見直しを検証し、生徒の実情に応じた授業を展開するとともに、観点別評価をさらに検証して適切な評価につなげる。	①授業評価アンケート結果の「理解度」「主体的に取り組む態度」で「そう思う」が7割以上。 ②観点別評価方法、教育課程は生徒の実情に合っているか。	○授業力向上への取組 ①授業評価アンケートでは「理解度」「主体的に学ぶ態度」で「そう思う」は7割に達しなかったものの、「そう思う」「ややそう思う」を合わせるとすべての教科で8割以上に達していた。 ②昨年より全学年で観点別評価となり、共通認識の共有が図れている。	A ・授業評価アンケートを4件法にし、生徒がより回答しやすい形式に修正した。その結果、生徒の理解度・定着度・主体性においての実態把握につなげることができた。今後は授業力向上に向けた更なる取組を進めていく。 ・教員間で観点別評価への共通認識の更なる共有を図る。
2	・生徒が自分自身の進路について考え、取り組む姿勢は身につけてきている。今後は、長期的な視点で、高い志を持ち主体的に進路選択をする生徒の育成を目指すことはもとより、進路実現に向けた効果的な支援体制を強化し、組織的な進路指導を継続させる。	・高校3年間を見据えたキャリアプランを考えさせ、自らの興味や関心を理解した上で進路実現に向けて努力させる。	①総合的な探究の時間の活用により、生徒に主体的な意識啓発をする。 ②進路行事等で進路意識の向上を図る。進学情報ツールを積極的に活用し、生徒に明確な動機と高い進路目標を持たせ、進路実現につなげる。	①9割以上の生徒が長期的な視野で自身の希望する進路実現に向けて考えられたか。 ②進路に対する高い志を持ち、希望する進路を実現できたか。	○高い志を持たせた進路実現 ①3年間を通じた「総合的な探究の時間」で養われた思考力表現力を活かし、創立百周年記念式典を始めとする質の高い学校行事が実現できた。 ②自らの進路実現のため、総合型選抜や公募推薦などで第1志望合格に向けて最後まで諦めずに努力する生徒が多くみられた。	B ・「総合的な探究の時間」の効果的な取組について、引き続き検討を進めていく。 ・進路に関する各種ガイダンスを通して、生徒の進路意識を啓発し、補講の取組についても引き続き検討する。
3	・学業と両立しながら、部活動や生徒会活動に積極的に関わる生徒が多い。部活動や学校行事を通して、主体的な活動を支援し、達成感や達成感のもとより、自己肯定感・自己有用感を感じられる取組を行っていく。	・部活動や各委員会活動の内容を充実させるとともに、コミュニケーション能力向上のための場を設定する。	①部活動や各委員会が充実した活動となるよう主体性・協調性・思考力・表現力・判断力を育成する。 ②ビブリオバトルや異校種交流、探究活動などを通して、生徒のコミュニケーション能力を高める。	①部活動の活動内容や成果、各委員会の活動内容及び思考力・表現力・判断力が向上したか。 ②コミュニケーション能力向上により、適切な人間関係構築ができていくか。	○主体的に活動を促進する取組 ①創立百周年記念式典を始め、音楽部の3年連続全国大会出場、箏曲部の全国大会出場、陸上競技部のインターハイ出場など多くの部活動が自身の自己実現と本校の発展のために主体的に取り組むことができた。 ②校外図書館でのビブリオバトルや平和資料館での紙芝居読み聞かせ活動などにも積極的に参加した。	A ・創立百周年記念事業で培った経験と全国レベルの部活動を展開しているという自負のもと、より一層の自己実現に向けた意識の醸成を図る。 ・「地域の期待に応える」松女生生としての自覚と責任を意識させながら、引き続き生徒主体で学校行事の企画運営ができるよう指導する。
4	・品位ある制服の着こなしや言動等が概ねできており、地域からの信頼も厚い。今後も品位の醸成を継続しつつ、さらに保護者や地域から信頼を高められるように、主体的に他校や地域社会に関わる生徒を引き続き育成していく。	・高い生活規律の維持に努めさせ、自身の行動について主体的に考え、振り返ることができるようにする。 ・地域に向けて本校の良さを積極的に発信する。	①風紀委員の活動や学年集会、部会長などを活用し、生徒自身の規範意識について考えさせる機会を増やすことで、更なる信頼を高める。 ②本校HPやSNSを活用し各学年や分掌等と連携し、地域・保護者・中学校等へ本校の教育活動の強みを伝える。	①生徒が自身の言動について規範意識を持って学校生活を送り、校外で、周囲に対する細かい気配りができているか。 ②学校説明会等のアンケートにおける参加者の満足度は十分であり、入学志願者数が増加したか。	○本校の信頼を得られる取組 ①オーバーコート導入においては、生徒会や生徒指導部の指導の下、生徒が詳細規定について主体的に検討し、ルール化することで導入に至った。 ②生徒募集部が中心となり、学校全体で生徒募集業務に取り組んだ。生徒ボランティアや生徒会、部長会など多くの生徒が関わり、学校説明会等で本校の生の魅力を発信できた。	A ・学校の風紀が時代にあっているか、地域の状況や社会通念との整合性はあるかを考えさせることは重要であり、今後も継続して指導していく。 ・生徒のありのままの様子を中学生や保護者に示すことは大変有効であり、今後も継続して、学校全体で募集業務に取り組んでいく。

学校関係者評価
実施日 令和8年2月6日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートから、生徒からの評価が高いことが分かる。先生方が授業を頑張っているからに他ならない。良い先生が揃っていると感じる。 ・一方で、施設設備の点でやや評価が低いと感じた。体育館のトイレのことではないかと思う。今後検討してみようか。 ・年内入試の生徒は、一般入試生徒と比較して入学後に基礎学力に差がある場合が多い。基礎学力の向上という目標に対し、具体的な取組はあるか。 ・公立高校は、私立に比べて様々な面でお金を掛けることには限界がある。松女の良さは、地域に根ざした学校であること。学力以外のところでも、自信を持たせることが大事ではないか。 ・創立百周年記念式典は、大変素晴らしいものだった。 ・町内の運動会は、毎年本校を借りて開催している。空手道部と吹奏楽部の披露が素晴らしかった。町内には、本校の生徒の活躍が見たくて来る人も多い。今後も是非頑張ってもらいたい。 ・制服の着こなしについて、服装が乱れている生徒はほとんど見かけない。 ・以前と比べても、着こなしはとても良いと感じる。保護者の目から見ても、安心して子どもを預けられる学校であると思う。